Cは、対象期間を日を単位として表した数にみなし設備利用率を一から差し引いて得た数を乗じて得た日数（一日未満の端数があるときは、これを切り捨てた日数）に六月経過日数を加えて得た数（ただし、六月基準日から三月を経過した日において運転を再開していない場合にあっては、当該経過した日が属する会計年度の翌会計年度から運転再開年度までの間は、対象期間を日を単位として表した数とする。）

七　原子力発電施設（機構が設置するものを除く。）のうち混合酸化物燃料を使用するものにあっては、六中の算式により算定した数に混合酸化物燃料の装荷割合を乗じて得た数をbに加えるものとする。

**別表第十六**（第十三条関係）

| 原子力発電密接関連施設の種類 | | 交付限度額 |
|---|---|---|
| 使用済燃料の再処理施設 | 一　二及び三以外の使用済燃料の再処理施設 | 次の算式により算定した金額<br>a×b |
| | 二　再処理施設を構成する高レベル放射性廃棄物ガラス固化体貯蔵管理施設 | 次の算式により算定した金額<br>c×d |
| | 三　再処理施設を構成する低レベル放射性廃棄物貯蔵管理施設 | 次の算式により算定した金額<br>e×f |
| 混合酸化物燃料の加工施設 | | 次の算式により算定した金額<br>g×h |
| 実用ウラン濃縮施設 | | 次の算式により算定した金額<br>i×j |
| 使用済燃料の貯蔵施設 | | 次の算式により算定した金額<br>k×l |
| 廃棄施設 | | 次の算式により算定した金額<br>m×n |

（備考）

一　aは、トンを単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における使用済燃料の年間最大処理能力を表す数

二　bは、百十八万八千円

三　cは、本を単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における海外から返還される高レベル放射性廃棄物ガラス固化体の最大貯蔵能力を表す数

四　dは、十一万八千円

五　eは、本を単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における海外から返還される低レベル放射性廃棄物の最大貯蔵能力を表す数

六　fは、三万四千円

七　gは、トンHMを単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における混合酸化物燃料の年間最大加工能力を表す数

八　hは、二百四十六万二千円

九　iは、トンSWUを単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における製品ウランの年間最大生産能力を表す数

十　jは、二十六万七千円

十一　kは、トンを単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における使用済燃料の最大貯蔵能力を表す数

十二　lは、五十万円

十三　mは、本を単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度の前会計年度の末日における容器（二百リットルドラム缶相当）の最大埋設能力を表す数

十四　nは、九百円

**別表第十七**（第十四条関係）

| 原子力発電密接関連施設の種類 | | 交付限度額 |
|---|---|---|
| 使用済燃料の再処理施設 | 使用済燃料の再処理施設 | 次の算式により算定した金額<br>a×b |
| | 再処理施設を構成する高レベル放射性廃棄物ガラス固化体貯蔵管理施設 | 次の算式により算定した金額<br>c×d |
| | 再処理施設を構成する低レベル放射性廃棄物貯蔵管理施設 | 次の算式により算定した金額<br>e×f |
| 混合酸化物燃料の加工施設 | | 次の算式により算定した金額<br>g×h |
| 実用ウラン濃縮施設 | | 次の算式により算定した金額<br>i×j |
| 使用済燃料の貯蔵施設 | | 次の算式により算定した金額<br>k×l |
| 廃棄施設 | | 次の算式により算定した金額<br>m×n |

（備考）

一　aは、トンを単位とする対象期間における使用済燃料の処理量を表す数

二　bは、百四十八万五千円

三　cは、本を単位とする対象期間の末日における海外から返還される高レベル放射性廃棄物ガラス固化体の貯蔵量を表す数

四　dは、十四万七千五百円

五　eは、本を単位とする対象期間の末日における海外から返還される低レベル放射性廃棄物の貯蔵量を表す数

六　fは、四万二千五百円

七　gは、トンHMを単位とする対象期間における混合酸化物燃料の加工量を表す数

八　hは、三百七万七千五百円

九　iは、トンSWUを単位とする交付金の交付の申請が行われる日の属する会計年度における製品ウランの年間生産量を表す数

十　jは、三十三万三千七百五十円

十一　kは、トンを単位とする対象期間の末日における使用済燃料の貯蔵量を表す数

十二　lは、六十二万五千円

十三　mは、本を単位とする対象期間における容器（二百リットルドラム缶相当）の搬入量を表す数

十四　nは、一万二千五百円